

# 小金井の桜並木復活へオープン



桜の苗木を植える開所式の参加者ら＝小金井市で

## 夢植えよう 育苗ファーム

小金井市の玉川上水沿いの桜並木復活に取り組む同市や市民団体が三日、同市本町五に「名勝小金井桜育苗ファーム」をオープンし、

一九二四年に名勝沿いの桜並木復活に指定されたが、近年の樹勢の衰えを受けて都たNPO法人「小金井桜を復活する会」などが運営にあたる。開所式には小金井市

点となる。

用地は所有者が「子どものために役立ててほしい」と市に申し出た土地の一部約八百平方メートル。地元のほか、小金井桜のルーツにあたる茨城県桜川産の苗木など約五百四十本を植えた。「名勝小金井桜の会」や新たに発足したNPO法人「小金井桜を復活する会」などが運営にあたる。

### 茨城・桜川の小学生も参加

## 「頑張って」とエール

内で苗木を預かって育てた市民や、桜川市から苗木四十本を持参した同市立岩瀬小学校の子どもら約五十人が参加。岩瀬小の子どもたちは「小金井の人たちが、きれいな桜を見られるよう頑張ってください」とエールを送った。

名勝小金井桜の会の石田精一会長は「長く望んできた施設ができ、感謝無量。三～五年後に植樹できるように育てたい」と話していた。

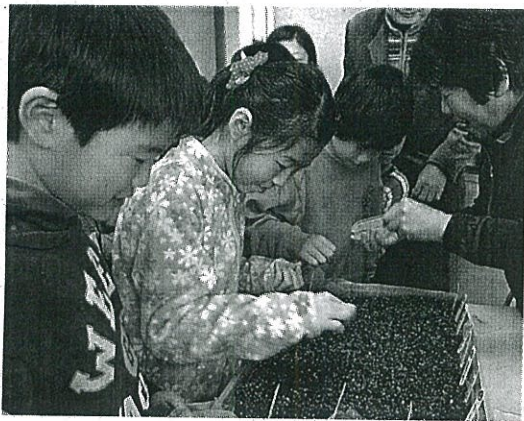
# 小金井桜、子どもがつなく

今から275年前、江戸時代中期の元文2年(1737年)に植えられ、国の名勝に指定されている「小金井桜」。その命を未来につなげようと2月7日、小金井市立第2小の児童が種まきをした。

## 地元小学生が種まき

### 一粒一粒に命が

「さあ、君たちが観察したり、調べてきた小金井桜の種をまく時間だよ。担任の内海晃先生の指示に従って、3年生の児童79人が用土の入ったトレイの前に並んだ。種は、小金井桜の再生



に1996年以来取り組んでいる市民グループ「名勝小金井桜の会(石田精一会長)」が用意。小金井堤で昨年6月、ヤマザクラを中心にオシマ系を含む15本のサクラから採取した348粒だ。二粒一粒に名勝小金井桜の命が受け継がれているのだから、大事に植えてね」と手渡された種を、児童たちは1秒間隔で土に植えていった。小金井桜の中心地、小金井橋から徒歩5分の地にある同小では、この日は学



④「芽を出してね」と声をかけながら種をまく児童ら  
⑤総合学習「桜を通して、この町を考える」の授業で耳を傾ける3年生の児童ら

### 小金井桜を未来に!

3年生は総合学習とし

校公開日で、多くの父母たちも見守った。



名勝小金井桜

江戸時代中期、武蔵野の新田開発の一環として、小金井橋を中心に玉川上水の両岸6\*にわたって約2000本の山桜が植えられた。江戸後期には関東随一の桜の名所に。大正13年(1924年)には国の名勝にも指定されたが、昭和40年代以降、玉川上水の通水停止や樹木の老化により花見の名所は小金井公園にとつかわられている。

て昨年4月から、桜を通してこの町を考えようと、桜の観察や他の木々との比較、玉川上水の歴史などを学んできた。その総仕上げとして「小金井桜を未来につなげよう」と種まきをする事になった。4月半ばには発芽するぞうで、苗木はそれぞれが持ち帰り、自宅で1年間育てる事になっている。

石田さんは「市内の学校で種まきに取り組むのは初めて。子どもたちの手で小金井桜の命を受け継いでほしい」と期待を寄せる。児童たちも発芽を心待ちにしている。